

子宮がん集団検診受診者募集

子宮頸がんは子宮の入口付近にできるがんで、発生にはヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が関連するといわれています。

HPVは多くの人が感染し、通常は免疫力で自然に排出されますが、消えずに感染が継続すると子宮頸がんになる危険性があります。早期に見えれば治すこと

のできるがんです。必ず検診を受けましょう。

▼対象 市内在住で20歳以上（平成6年3月31日以前生まれ）の女性

※健康保険の種類は問わない。ただし次の方を除く（性経験のない方が希望する場合は要相談）

・妊娠中または妊娠の可能性がある方

・子宮疾患で治療中または経過観察中の方

・今年度中に子宮がん医療機関検診を利用予定の方

▼内容 子宮頸部細胞診（ブラシで子宮頸部の細胞を採取）

▼料金 800円（検診日当日に徴収）

※75歳以上の方は無料（昭和14年3月31日以前生まれの方）

▼申込方法 5月27日（月）～6月7日（金）の期間内に電話、または保健センター窓口で直接申し込む※土・日曜日を除く

▼申込・問合せ 保健センター ☎48・6000

日程・会場（検診当日の受付時間は13:00～13:45）			
期 日	会 場	期 日	会 場
7月1日（月）	保健センター	7月8日（月）	文化会館
7月2日（火）	保健センター	7月9日（火）	高野公民館
7月3日（水）	文化会館	7月10日（水）	保健センター
7月4日（木）	郷州公民館	7月11日（木）	保健センター
7月5日（金）	中央公民館		

個人通知のお知らせはありません。

国際交流員

ヨークさんの

MORIYA 滞在記



男女共同参画

皆さんがご存じのとおり、私は市役所で働いています。職場では、子どもがいても常勤している女性職員が多いです。この光景を見ていると、日本も男女共同参画社会になってきたのだと感じられます。しかし、私が来日してから受けた印象はこの光景とは異なりまして。今回は男女平等について書きたいと思います。

私は日本で、年齢と結婚についてよく聞かれます。日本はドイツと異なり、男性と女性の社会的な役割が決まっているような印象を受けました。必ず結婚しなければならぬ気がしてしまいます。私はもう33歳なのに、結婚はしていません。

ん。外国人の私でも、プレッシャーを感じてしまいます。日本では、結婚すると男性が働き、女性が子どもの面倒を見て、家事をします。現在、徐々に変わってきているように、ドイツも似たような状況にあります。しかし、日本は政府が男女共同参画を支援している、ドイツと比べると人々の対応が遅れており、相変わらず男性社会であると感じました。男女平等は政府ではなく、個人レベルでの対応が必要なのではないでしょうか。

来日してから一番に気付いたのは、料理全般に対する女性の役割です。例えば、私が日本人の友人宅に誘われた際は、料理はすべて女性の担当で、食べた後の片付けも女性が一人で行っており、不平等な印象を受けました。この話は、その女性が料理好きだっただけなのかも知れませんが、宴会でも、男性が楽しんでいて、女性は飲食物を配り、注文を取るなどの役割を担うことが当たり前のようです。たとえ、これらが日本の縦社会に結び付いているのだとしても、基本的に日本には、高い地位（例えば社長や大臣）につく女性は少ないです。市役所ですら、少しずつ増えてはいますが、管理職の女性はまだまだ少ないと感じます。男女共同参画を推進すれば、男女比も変化していくでしょう。

ただ、夢を追う若者を見ていると、男女平等が進んでいる気がしています。私は、特に出世に対して意欲的な女性を応援しています。男女共同参画社会を政策によって実現するのは時間がかかり、日本もドイツもその過程にあると感じています。このスピードを加速させるには、皆さん一人一人の行動を変えていくことが大切です。まずは手始めに、男性も食後の食器を片付けましょう。その後は、料理に洗濯に、子どもの送り迎えに：そのうち逆転してしまいかも知れませんが、それでも、女性をサポートしていくことが今後の社会にはとても重要なことなのです。